

腰椎椎間板ヘルニアの治療法は、

①保存療法 ②椎間板内酵素注入療法 ③手術療法
の大きく3つに分けられます。

腰椎椎間板ヘルニアには4つのタイプがあります。

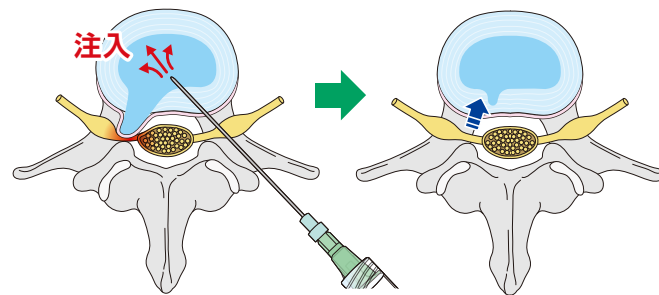
小

①主な保存療法

- 安静**
重労働など腰に負担をかける動作を控え、楽な姿勢をとるようにします。
- 薬物治療**
痛みや炎症を抑えるために、非ステロイド性消炎鎮痛薬などを服用します。湿布薬や塗り薬などの外用薬を併用することもあります。
- コルセット**
コルセットにより腰の安静を保ち、椎間板にかかる負担を減らします。
- 神経ブロック**
薬物治療でも痛みが改善されない場合の治療法です。痛みの起きている神経やその周辺に薬剤を注入して痛みを抑えます。

②椎間板内酵素注入療法

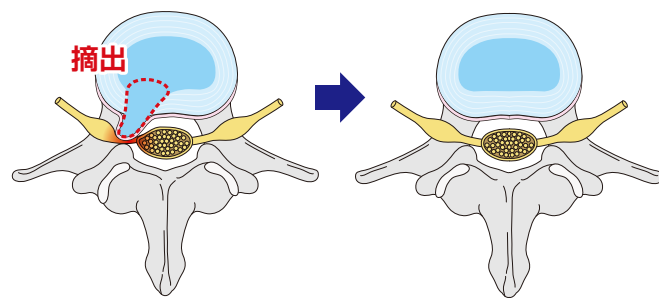
患者さんの負担は保存療法と手術療法の間と考えられます。椎間板内に酵素を含んだ薬剤を直接注射して、ヘルニアによる神経の圧迫を弱める方法です。



椎間板内へ薬剤を注入

③手術療法

手術によりヘルニアを取り出し、神経への圧迫を取り除きます。切開による方法や、顕微鏡や内視鏡を用いた方法などがあり、数日から1週間程度の入院が必要です。



突出したヘルニア塊の摘出

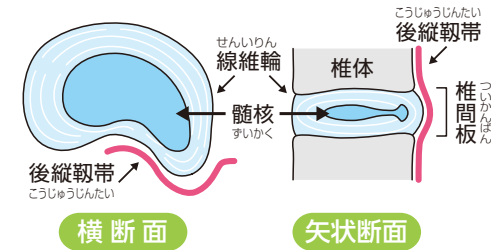
椎間板内酵素注入療法はこのタイプで使えます。

患者さんの心理的・身体的な負担

大

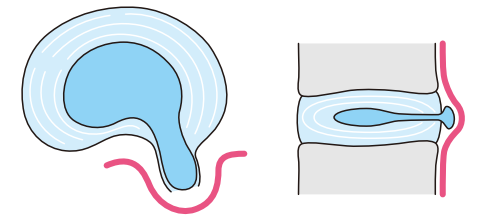
膨隆・突出型

ヘルニアが線維輪の内側にとどまっているタイプ



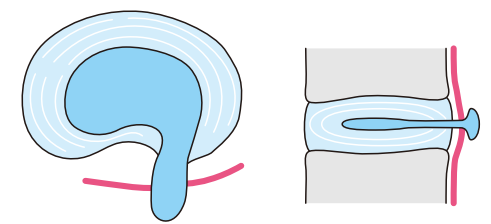
後縦靱帯下脱出型

ヘルニアが線維輪を飛び出しているが、後縦靱帯の内側にとどまっているタイプ



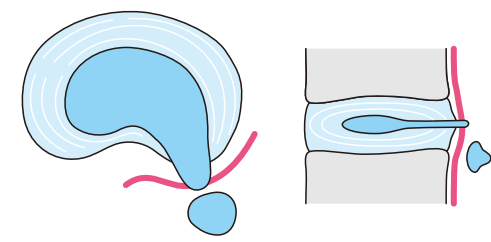
経後縦靱帯脱出型

ヘルニアが後縦靱帯を飛び出しているタイプ

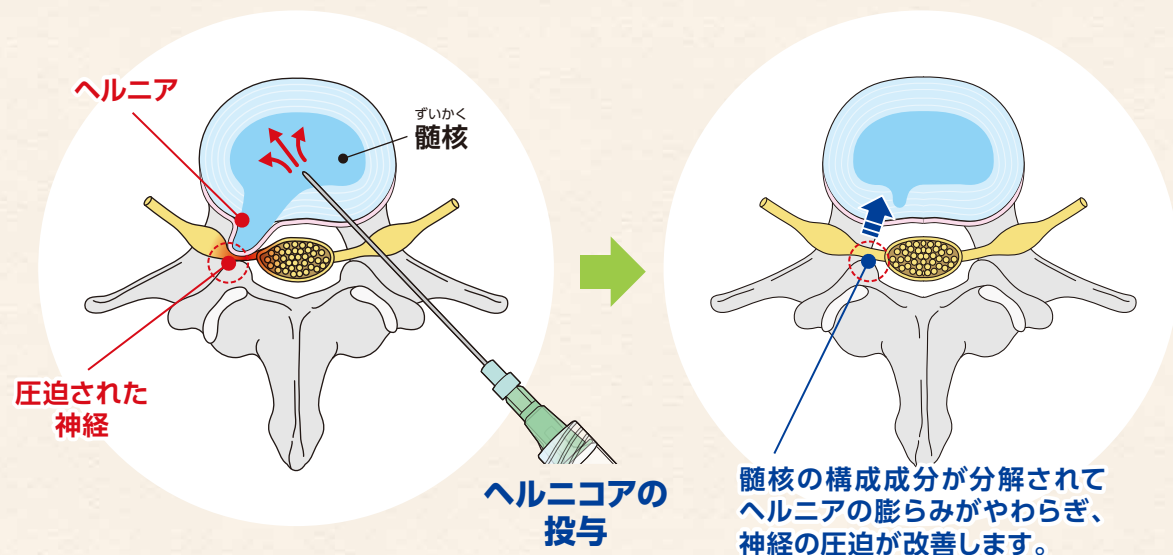


遊離脱出型

後縦靱帯を飛び出したヘルニアが分離しているタイプ



ヘルニコア [椎間板内酵素注入療法] の働き (イメージ図)



ヘルニコアの治療手順

1 レントゲン台に横になり体の位置を調整します。

X線でヘルニアのある椎間板を確認しながら、針を刺す場所を決めます。

2 針を刺す位置を消毒します。

3 ヘルニアのある椎間板内に針を刺し、ヘルニコアを注射します。

4 しばらく安静にします。

薬による副作用がないかなどの確認をします。

5 (医師の診察を受け)問題がなければ帰宅できます*。

*医師の判断で1~2泊の入院となる場合があります。



ヘルニコアの治療を受ける前に、確認していただきたいこと

- ①過去にヘルニコアによる治療を受けた方は、再度ヘルニコアの治療を受けることはできません。
- ②以下に該当する方はヘルニコアの治療に注意が必要です。治療前に必ず医師に相談してください。

- ▶アレルギー体質の方
- ▶「腰椎不安定性」の疑いがあると医師から言われたことがある方
- ▶変形性脊椎症、脊椎すべり症、脊柱管狭窄症などヘルニア以外の脊椎疾患のある方
- ▶骨粗鬆症、関節リウマチのある方
- ▶妊娠中の方、妊娠している可能性のある方、授乳中の方

ヘルニコアの副作用

- 注意が必要な副作用として、アナフィラキシー（ふらつき、息苦しい、蕁麻疹など）や腰椎不安定性（ヘルニコア投与前とは異なる腰痛、下肢痛、しびれなど）があります。このような場合は、直ちに医療機関に連絡し、すみやかに医師の診察を受ける必要があります。
- 主な副作用として、一過性の腰痛、下肢痛や発疹、発熱、頭痛がみられることがあります。
※注射部位に痛みが生じることもあります。



治療後の日常生活への影響

- 治療当日は入浴を控えます。
- 治療後1週間は腰に負担をかけないようにします。治療後は椎間板の周りの組織に変化が起きている。日常生活やスポーツ開始時期など詳細は医師に相談してください。
- 定期的に診察を受ける必要があります。